

第 35 期小田原市図書館協議会 第3回協議会 会議録

日 時 令和5年6月23日(金)9時 30 分から

場 所 小田原市立中央図書館2階 研修室

1 開会

2 委嘱状 交付

3 文化部長挨拶

4 報告事項

(1)利用者からの意見・要望等について 【資料1】【資料2】

○事務局説明(野地副館長)

○質疑応答

〔北河委員〕 WI-FI の電波について、両館で意見があるが、PC 等の使用は今後増えていくと考えられる中、今後の対応はどうしていくのか。

〔石塚副館長〕 中央図書館については、一部館内で Wi-Fi のアクセスポイントから外れる部分もあるが、全体的に利用可能であり、パソコン利用コーナーを設置している。

〔青柳東口図書館統括責任者〕 東口図書館も、全館をカバーしている。すぐに切れてしまうという意見もあったが、使用しないと15分で切れてしまうが、継続的に使用していれば切れることはない。WI-FI が2種類あり、継続的に使える WI-FI もあるので、利用に応じて使用していただきたい。

〔馬見塚委員〕 丁寧によく多くの意見に対応いただきありがたい。談話室も居心地がよく改善されていた。

鴨宮駅への返却 BOX に関しては、駅で返すことができると利便性が上がるので、今後の課題として検討いただきたい。

〔佐次館長〕 返却 BOX については、現時点で難しいと回答している。市内では、通常の図書館に加え、利便性を考え小田原駅のアークロードでも返却を可能にしている。ただし、返却ポスト経由の本は、すぐに貸出ができないという課題があり、返却の情報が即時に反映されないということも生じるため、効率的なルートを検討する必要がある。現実的に運用としては難しい。

〔馬見塚委員〕 アークロードは毎日回収していないのか。

〔佐次館長〕 毎日回収している。毎日回収しているが、返却についてトラブルが生じている。

〔馬見塚委員〕 駅での返却が多いということは、利用が多いということなので、検討して欲しい。

〔石塚副館長〕 中央図書館は、鴨宮駅から近いことから、鴨宮駅に返却 BOX を

置く予定はない。返却 BOX の設置は、利用者の利便性があがるが、貸出冊数の増につながるかは疑問である。返却のため、中央図書館に足を運んでもらい、新しい本を借りてもらえることを期待している。

- 〔大塚委員〕 秦野市民に貸出できないのか。
- 〔青柳東口図書館統括責任者〕 カードは作っていない。貸出の範囲は中央図書館で決定している。
- 〔佐次館長〕 2市8町と二宮町、小田原市に在住・在勤・在学であれば、カード利用ができることとしている。他市民が借りることができるのは、相互の市町で利用可能なように連携している。
- 〔大塚副委員長〕 その他については、どこまで広げるのか、制限の設定が難しい。
小田原駅を通過する方ではないような気がしている。
秦野市民が小田原駅まで来て借りたいと思ったのだと思う。私自身秦野市で魅力的な絵本を見つけた。
- 〔佐次館長〕 相互の貸出については、カードを作る場合は先ほど回答したとおり、県内の他市所蔵の本を、取り寄せて本市で借りることは現時点で対応している。本の貸出については、その制度を使用していきたい。
- 〔大塚副委員長〕 「このような本を借りたい」と相談があった際、他市が所有していた場合は、この制度をご案内している。
- 〔野口委員長〕 このサービスについては周知をしっかりとしていきたい。
- 〔北河委員〕 協定が生じる話なので、資料の取り寄せの仕組みを使っていたかどうか。
- 〔青柳東口図書館統括責任者〕 今回の女子トイレや子供への声掛けについて。女子トイレについては、日ごろ定期的に職員による巡回を行っている。それとは別に防犯カメラを設置しているため、トイレに入室した人は特定することは可能であり、巡回や貼り紙を増やしたり、ミナカの警備とも連携を強めた。
- 〔北河委員〕 今後も、図書館を安心安全に利用していただける体制を作っていきたい。
- 〔野口委員長〕 今後、図書館のトイレで嫌な思いをすることがないようにしていきたい。
- 〔野口委員長〕 そういった事案については、中央図書館でも課題ではないかと思

うが、中央図書館の対応はどうしているのか。また、たばこのポイ捨てについては、館内で生じたのか。

〔石塚副館長〕 ポイ捨てについては、館外の敷地内。館内巡回も行っている。

〔藤本委員〕 学校も安心安全といった面で課題を抱えている。防災については、訓練を行っているが、防犯についての訓練は行っているのか。

〔佐次館長〕 防災訓練は毎年行っているが、防犯についての訓練は行っていない。利用者マナーについてであるが、後ほどその他の部分でお話をさせていただきたいと思っている。

〔馬見塚委員〕 資料2-1施設及び運営全般の Q3 について、座席番号に対する要望は、ルールを守らない人が多いということなのか。

〔青柳東口図書館統括責任者〕 特に座席に関して、2時間の申込制にしているため、守らないということはない。時間オーバーの場合は、職員から声掛けを行っている。受付カウンターで座席の申込を行うのが煩わしいと感じた方が機械の導入の意見をくださった。閲覧席の利用時間の延長について、意見が多かったため、4月より、1日2時間の利用を、1回延長できるよう運用を変更した。

(2)令和 4 年度小田原駅東口図書館事業報告概要及び評価 【資料3】【資料3関連資料①②】

○事務局説明(植田副館長【資料3】 青柳統括責任者【関連資料①②】)

○質疑応答

〔大塚副委員長〕 資料3関連資料②の2ページについて、今後、連携するボランティア団体を増やす予定があるとのことだが、今後の計画はあるのか。

〔青柳東口図書館統括責任者〕 現時点で、対応いただいているすずの会は、旧市立図書館で活動いただいていた団体であり、引き続き活動いただいている。

団体からの希望があれば、おはなし会の実施に向けて意見を聞きたい。

〔石塚副館長〕 本日欠席の長谷川委員から質問がよせられた。

資料3関連資料②について、アンケート回答は10代が多いが、こういった本が読まれているのか、統計をとることができるのか。電子図書館の利用者アンケートを行っているのか。今後アンケートの予定はあるのか。

〔植田副館長〕 何の本を借りたのかは返却のタイミングで消えてしまうが、統計を取ることはできるので、こういった年代にこういった本が読まれているのかは確認可能である。今後の選書の参考にする。電子図書館のアンケートについては、今後検討する。

〔佐次館長〕 アンケートの割合はあくまでもアンケートに回答してくれた年代

の割合であり、貸出についての割合ではない。

どの年代も文学の貸出が一番多い。年代ごとの特徴は出てくる部分はあると思うので、利用者同行は今後もとらえながら選書に反映したい。

〔青柳東口図書館統括責任者〕 アンケートの回答者がそのまま貸し出しにはつながっていない。なぜ10代は貸出が少ないのか、どういった本であれば借りたいと思えるのか、アンケートで伺っていききたい。

〔野口委員長〕 そもそも図書館の利用目的が本の貸出だけではないので、そういった方にどうアプローチできるのかは、聞いてみるのがいい。

〔馬見塚委員〕 【資料3】5ページの読み聞かせ講師とはどういった方か。

〔青柳東口図書館統括責任者〕 上甲さんという方。広く読み聞かせについて活動している方。

(3)令和4年度中央図書館事業報告概要及び評価について 【資料4】【資料4関連資料】

○事務局説明(植田副館長)

○質疑応答

〔勝川委員〕 運営体制について、会計年度任用職員・委託職員については、どういった資格や経験から選ばれているのか。

〔佐次館長〕 職員については、市の職員。3名司書資格を持っている。

会計年度任用職員については、司書資格などがあれば、選考の際参考にしている。一部職員は以前の旧市立図書館の時代から、地域資料に携わっている方がいる。委託職員のなかには、司書資格を持っている方もいれば、図書館歴の長い方もいる。

〔勝川委員〕 一番長い資格者でどのくらいか。

〔佐次館長〕 委託職員の中で資格を持っている方で20年以上勤めている方もいる。地域資料の従事者も、20年近く業務に携わっている。市の職員では、通算在籍年数8年が最も長い職員である。

〔勝川委員〕 レファレンスについての評価が低いところが問題であり、図書館として、どんな本があるのか、よく知っていることが大切で、職員の充実について考慮いただきたい。

〔佐次館長〕 指摘についてはまさにそのとおりであり、中央図書館の業務についても客観的にみることとして、初めて自己評価を行ったが、レファレンスについてなど、問題として見えてきた部分があるので、図書館としての専門性を確保していくための努力が必要と感じた。

市職員については、人事異動があることは仕方がない。会計年度任用職員で専門性を確保していくのも対応のひとつ。

司書資格者数で専門性を確保とすることは現状では難しい。職員

がどうやって質を向上するのか、研修体制を高めるなどしていきたい。

〔馬見塚委員〕 小田原市は蔵書が充実していて、古い蔵書が手に入るのが魅力のひとつ。蔵書点数は、蔵書可能数を遥かに超えているようであるが、今後どこまで増やしていくのか。

〔佐次館長〕 所蔵環境については課題である。書架として使っていない倉庫に棚を増やすなどしている。

旧市立図書館から移動できていない蔵書も多くある。すべてを中央図書館に置くことはできないので、資料の選択が必要である。廃棄も含めて対応が必要。今後も継続して選択を行っていく必要がある。収まり切れない部分については、所蔵場所の確保についても努めていきたい。

〔野口委員長〕 旧市立図書館にはそのまま残っている本があるのか。いつまで建物として使えるのか。

〔佐次館長〕 計画は、令和8年度までに解体することが位置づけられている。スケジュールについては流動的であるが、令和8年度に向けて資料の選別を少しずつ始めている。

〔藤本委員〕 電子図書館が学校に導入されることについて、感謝している。子供たちがすぐに活用できる環境になったことは、図書館のない学区の子供たちにとっても、とてもよいことである。

夏休みを迎えるにあたり、よい取り組みである。ありがとうございました。

〔野口委員長〕 昨年、東口図書館の自己評価が厳しいと思ったが、中央図書館についても、初めての自己評価ではあるが、厳しいのではないかと感じた。学校図書館との連携の評価項目はないのか。

〔佐次館長〕 学校図書館との連携は大きな課題のテーマ。図書館施策を進めることと、中央図書館としての業務は別で、学校図書館との連携は、図書館施策全般として関わるべきものなので、全般的に考えていく必要がある。

〔野口委員長〕 要望であるが、利用統計については、昨年度の実績値を記載し、前年比較が見える形にしていきたい。

〔勝川委員〕 電子図書館で予約し順番待ちになっているが、順番がきたときに、メールなどでお知らせは来ないのか。

〔小野主査〕 サイトにログインしないと貸し出し状況や予約状況が見ることはできない。

〔佐次館長〕 電子図書館のサイトには、メールアドレスの情報を保有するなど、

個人情報保有する機能はないので、自分で確認するしかない。

(4)令和4年度末の蔵書資料数等について 【資料5】

○事務局説明(植田副館長)

○質疑応答

〔北河委員〕

【資料5】3ページ(2)資料総数の推移について、図書室・図書コーナーの公民館の本が減少しているのは、なぜか。

こゆるぎの図書コーナーは面白くないと思っている。新しい本が入っていないのと、並びも変わっていない。「あるだけ」という印象を受ける。こゆるぎ周辺は、他の図書館には行きづらい土地なので、図書コーナーとして活用していないのではないのか。中央図書館と連携して、本の入れ替えをしてはいいかがか。

〔佐次館長〕

地域センターの図書コーナー等について、図書予算が確保できておらず、新しい本の購入や、本の移動ができておらず、魅力が上がらない。地域政策課と調整している中で、定期的に図書館からの配本も増やしている。マロニエといずみについては、自動車文庫としての本を送っている。

何か月かは中央図書館からもってきた本をマロニエならマロニエ内で回るような仕組みを作っているところ。実績として、喜ばれている声も聞いている。大幅な入れ替えは難しいが、少しでも新しい本を入れる仕組みを続けていきたい。また、寄贈なども活用して鮮度を上げる工夫をしている。

〔野口委員長〕

関連して、たびたび話題になっているが、図書コーナーは図書館の所管ではないということで、それぞれ選書している職員はいるのか。

〔佐次館長〕

尊徳、けやき、国府津についてはわからないが、マロニエ、いずみ、こゆるぎについては、立ち上げ時に図書館が選書して大枠を入れた経緯はある。その後は引き続きそれぞれ所管で購入しているようである。全体的に図書館の本を回しているが、棚の鮮度は保てているとは言い難い。

〔野口委員長〕

うまく図書館として一元化したほうがいいのではないかと。市民にとっては、図書館の一部とってしまう。ぜひ調整いただけると、市民にとってもメリットが大きい。

〔大塚副委員長〕

図書コーナーの予算や管理(窓口業務)は、どこが担っているのか次回、きちんと表として資料にしていきたい。中央図書館は蔵

書がいっぱいになっているのであれば、そういったところに移管するなど、方法はあると思う。

今までも協議会として何度も意見として出ているのにも関わらず、消えてしまっている。市民に近い部分なので、第一歩として動いていただきたい。

〔佐次館長〕 マロニエ、いずみ、こゆるぎは、地域政策課が所管している。尊徳、けやき、国府津は、生涯学習課が所管している。

旧市立図書館が閉館する際に、かなりの書籍をマロニエに所蔵変更をかけている。中央図書館で除籍する際にも、マロニエの担当者に声をかけている。

〔野口委員長〕 マロニエは、蔵書数が減っているが、移管を踏まえて削減しているということか。

〔佐次館長〕 そうである。

(5)その他

・電子図書館と学習用端末等を活用した読書活用の推進について

○事務局説明(佐次館長)

〔佐次館長〕 昨年度スタートした電子図書館について、今回、学校で小中学生は1人1台タブレット端末を持っており、それで電子図書館にアクセスできるよう、ID とパスワードを配布した。7月からスタートする。朝読書や調べものに活用いただきたい。ID・パスワードは他の端末でも活用できるので、家でも使用可能となる。

また、読み放題パックも開始し、複数人が同じ本を読むこともできるようにした。

・中央図書館 館内利用における事例について 【資料6】

○事務局説明(佐次館長)

〔北河委員〕 図書館内での音の発生についてある程度の音の発生は仕方がないが、特に高齢者は固定観念が強く、図書館は静寂なイメージを持たれているのではないか。

若者は、音があればイヤホンをするなどの能力があるが、高齢者はそうはいかない。音についてはしょうがないという点で、昔とは変わったという風に教育していくしかないのではないか。

〔植田委員〕 図書館で子供の声がするのは仕方がない。保育園の近くで子供の声がうるさいといわれる時代なので、例えばガラスで仕切るなどはできないのか。

〔佐次館長〕 もともとガラスで仕切られているが、入口が繋がっているので、

声は聞こえてしまう。抜本的な改修は難しい。

〔植田委員〕

東口図書館は横長なのでクレームは少ないのか。

〔青柳東口図書館統括責任者〕

ゼロではないが、容認している。窓口にクレームが来ても、すぐに注意をするわけではなく、様子をみている。

〔野口委員長〕

今は転換期であり、逆に静かに読みたい人の専用の部屋を用意している時代で、意見交換に重きをおく施設もある。

館内でピアノの演奏会などを行うところもあり、館内の音に関する意識を変えるイベントなどをやってみることもあっていいかもしれない。図書館の中であえて音を出す催しなど。

〔馬見塚委員〕

一利用者としてみたときに、話し声はとても気になる。集中したいときに音になるのはとても気になる。

公共の場で人に迷惑をかけないのは大前提。若い方で基本的なマナーを知らない人もいる。最低限のマナーを一覧で書いておくくらいはあれば、お互いに気持ちよく使えるのではないか。

〔野口委員長〕

音については、図書館ならではの意識である。その他のマナーについては他の公共施設でも同じ悩みを持っているだろうから、他の施設と情報共有をしてもらい、市として統一的なマナーを共通化してはいかがか。

〔大塚副委員長〕

3年生くらいの子供向けでマナー・ルールを貼ってはいかがか。子供向けにやれば、大人も読み、ルールを守る方になっていくのではないか。

〔野口委員長〕

子供向けだから大人は関係ないと思ってしまうのか。

〔大塚副委員長〕

記載の下に、子供だけじゃなくて大人も守ること、といったことは書いたほうが良い。

〔佐次館長〕

参考にさせていただきたい。大人が児童コーナーを使うという点についてはいかがか。特にルール化していきたい。

〔野口委員長〕

中野区中野東図書館は、ひとつのフロアが独立して児童コーナーがあり、そこは、児童コーナーの本を読む以外の目的は認めていない。注意をするように徹底しているようであり、特にクレームは出ていないので、図書館としてルールを徹底すれば、最初は大変かもしれないが、徐々に慣れていく。

〔北河委員〕

安心安全の点でもその方がよい。子供は子供のコーナーで自由にいさせてあげることがいい。

〔石塚副館長〕

大人が児童の本を予約する可能性もあるので、単に大人の出入りを禁ずるわけにはいかない。

〔野口委員長〕

目的に応じてということで良い。

〔大塚副委員長〕 以前図書館協議会で見学をした、旧市立図書館内の資料はどうなっているのか。作業の進捗はいかがか。

〔佐次館長〕 令和8年度を一つの区切りとして設定して、それに向けて動きを取っている。いつまでに何をするかを準備している。

〔大塚副委員長〕 特別にそれだけの作業を行っている職員はいるのか。

〔佐次館長〕 他の業務を兼任だが、1名がその作業に従事している。

・図書館を使った調べる学習コンクール審査員の選出について

○事務局説明(野地副館長)

藤本委員を選出

・事務連絡(石塚副館長)

次回の図書館協議会は開催を10月予定

〔野口委員長〕 それでは、以上で小田原市図書館協議会 第3回協議会を終了する。